

死にたいにまつわる
言いたいようで言え
ないそんな気持ちの
もっていきどころに
ついてみんなでいろ
いろ考えるシンポジウム

テーマは若者

2016年
12月23日〔祝〕
13:00~16:00
むすびわざ館

入場無料
申込不要

本音を言えない
あなたへ



今この時にも、死にたいほどの気持ちを一人きりで抱え、苦悩している若者がたくさんいます。私たちの相談窓口においても、多くの若者から「死にたい」との相談が寄せられますが、特にメールの相談窓口では、実に7割の相談者が10代~30代です。活動を通して実感する今の日本社会の姿は、残念ながら、若者にとって必ずしも居心地の良いものではないと感じています。そこで、本シンポジウムでは、「若者」をテーマとして、若者の死にたい気持ちの実状、どうすれば死にたい気持ちが和らぐのか、死にたい気持ちを持つ若者に対してどのような支えが必要なのか、といったことについて、実際に死にたい気持ちを持つ若者と関わってきた登壇者を交えて対話します。

このシンポジウムは、京都府自殺対策事業補助金を受けて開催します

登壇者（敬称略）



橋ジュン

NPO法人BONDプロジェクト代表、ルポライター。2006年、パートナーのカメラマンKENと共に、街頭の女の子の声を伝えるフリーマガジンVOICESを創刊。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支えるNPO法人BONDプロジェクトを設立。これまで少女たちを中心に3,000人以上に声をかけ、聞いて、伝えつづけてきた。著書に『漂流少女～夜の街に居場所を求めて～』（太郎次郎社エディタス）『最下層女子高生～無関心社会の罪～』（小学館新書）がある。



松本俊彦

1993年佐賀医科大学医学部卒業後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科などを経て、2015年より現職。日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事、日本青年期精神療学会理事。主著として、「自分を傷つけずにはいられない～自傷から回復するためのヒント」（講談社、2015）、「もしも「死にたい」と言われたら～自殺リスクの評価と対応」（中外医学社、2015）など。



竹本了悟

1977年広島生まれ。専門は真宗学。防衛大学卒業後、海上自衛隊に入隊するが僧侶となるため退官。龍谷大学大学院で真宗学を学ぶ。現在は、浄土真宗本願寺派総合研究所研究員。2010年に京都自死・自殺相談センター Sotto を10名の仲間と設立、代表を務めている。



玉木達也 進行役

1990年4月、毎日新聞入社。富山、京都支局、大阪社会部などを経て2004年4月から3年間、東京社会部で厚生労働省を担当。自殺問題に積極的に取り組み、自殺対策基本法（06年6月に成立）の制定に向け、キャンペーン的な報道を展開した。14年10月から現職。改正自殺対策基本法が施行された16年4月から全国の自殺対策に取り組む人々を紹介する連載「つなぐ」を香川面で週1回、執筆している。

タイムテーブル

- 12:30 開場
- 13:00 開始
- (間に休憩あり)
- 15:50 終了
- 16:00 ボランティア説明会

当日は、来場の皆さまが対話へ参加できるように、随時、質問用紙を受け付け、会場のスクリーンにはツイッターをリアルタイムで表示します。そして、その内容を登壇者間の対話の中に取り込むことで、会場全体で一緒に考える機会にしたいと考えています。ツイッターのハッシュタグは「#Sotto_sympto」で、ツイートしていただくことで当日の対話に、今からご参加いただけます。

平成29年度 第9期ボランティア募集

京都自死・自殺相談センターの活動を支えてくれるボランティアを募集しています。Sottoは自死の苦悩を抱えたときの心の居場所をつくる団体です。自死念慮者への電話やメール相談窓口、大切な人を自死で亡くした方への語りあう会の開催、一人でも多くの方への自死に関する情報を届ける発信の活動を柱としています。



むすびわど館（京都市下京区中堂寺南婦町1-10 | JR丹波口駅 徒歩4分）